

熊本県新広域道路交通計画における  
「10分・20分構想」の経済効果等に関する報告書

令和4年3月

熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会

# 目 次

はじめに.....	1
構成員名簿.....	2
熊本県新広域道路交通計画の概要.....	3
検討会開催概要.....	6
検討会の議事概要.....	9
1. 熊本都市圏の道路網における交通課題と経済損失	
2. アンケート及びヒアリング調査等について	
3. 「10分・20分構想」の実現による効果	
「10分・20分構想」実現に向けた提言.....	19

## はじめに

熊本市は、熊本城を中心に都市機能が充実した中心市街地と、豊かな自然や良好な農漁村地域等で形成される、九州中央における広域交流の主要都市である。

平成 28 年の熊本地震を踏まえ、地元経済界では、持続的な都市の発展はもとより、熊本地震からの創造的復興を実現させるため、都市圏交通網強化プロジェクト等を反映した「熊本市中心市街地グランドデザイン 2050」を取りまとめたところ。

このような中、都市の発展のために不可欠である広域的な道路ネットワークの形成と円滑な道路交通を確保するため、これまで熊本県内の高規格道路が着実に整備され、熊本と九州各県や県内各都市との連携・交流機能の強化が図られてきた。

一方、熊本都市圏においては、慢性的な交通渋滞により、熊本市中心部と九州縦貫自動車道や阿蘇くまもと空港などの交通拠点のアクセス性が非常に低く、都市圏内の渋滞解消が長年の課題となっている。

これらの状況を踏まえて、熊本県と熊本市が、令和 3 年 6 月に策定した「熊本県新広域道路交通計画」において「10 分・20 分構想」を掲げ、交通拠点等へアクセスする「熊本都市圏北連絡道路」、「熊本都市圏南連絡道路」、「熊本空港連絡道路」の 3 つの路線を高規格道路として位置づけており、地元経済界としても都市圏の高規格道路整備に大いに期待を寄せている。

「10 分・20 分構想」の一日も早い実現に向け、「熊本都市圏道路経済効果等検討会」を設立し、構想の実現が熊本県のみならず九州全体へ与える様々な経済効果について調査するとともに、市民や道路利用者の理解を深め、地域の機運醸成に繋がる効果的な取り組みを行う。

## 構 成 員 名 簿

	ふるしょう ただのぶ 古 庄 忠 信	熊本商工会議所 副会頭
	ののぐち こうき 野々口 弘基	熊本経済同友会 副代表幹事
座長	まるやま たくや 円 山 琢也	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授
	こばやし ひろこ 小 林 寛子	東海大学 経営学部観光ビジネス学科 教授
	きよた さちこ 清田 幸子	熊本日日新聞社編集局次長

# 熊本県新広域道路交通計画（R3.6月策定）の概要

## 熊本県新広域道路交通計画のコンセプト

“すべての道は、  
くまもとに通じる”

「九州の中心に位置する地理的優位性を最大限に発揮し、

“すべての道は、くまもとに通じる”という考えのもと、

広域道路ネットワークの整備を進めていきます」

### 広域道路ネットワークにおける4つのコンセプト

#### 150分構想

「熊本都市圏と九州各県主要都市を  
150分で結ぶ高速交通ネットワークを  
構築します」

#### 90分構想

「熊本都市圏及び熊本空港と  
県内主要都市を90分で結ぶ  
幹線道路ネットワークを構築します」

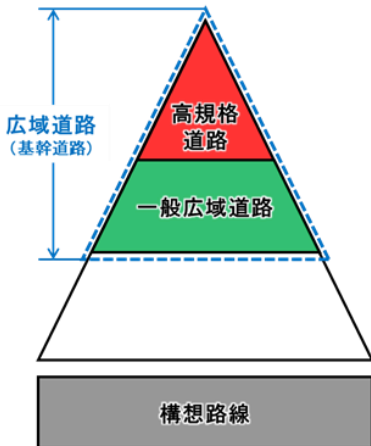
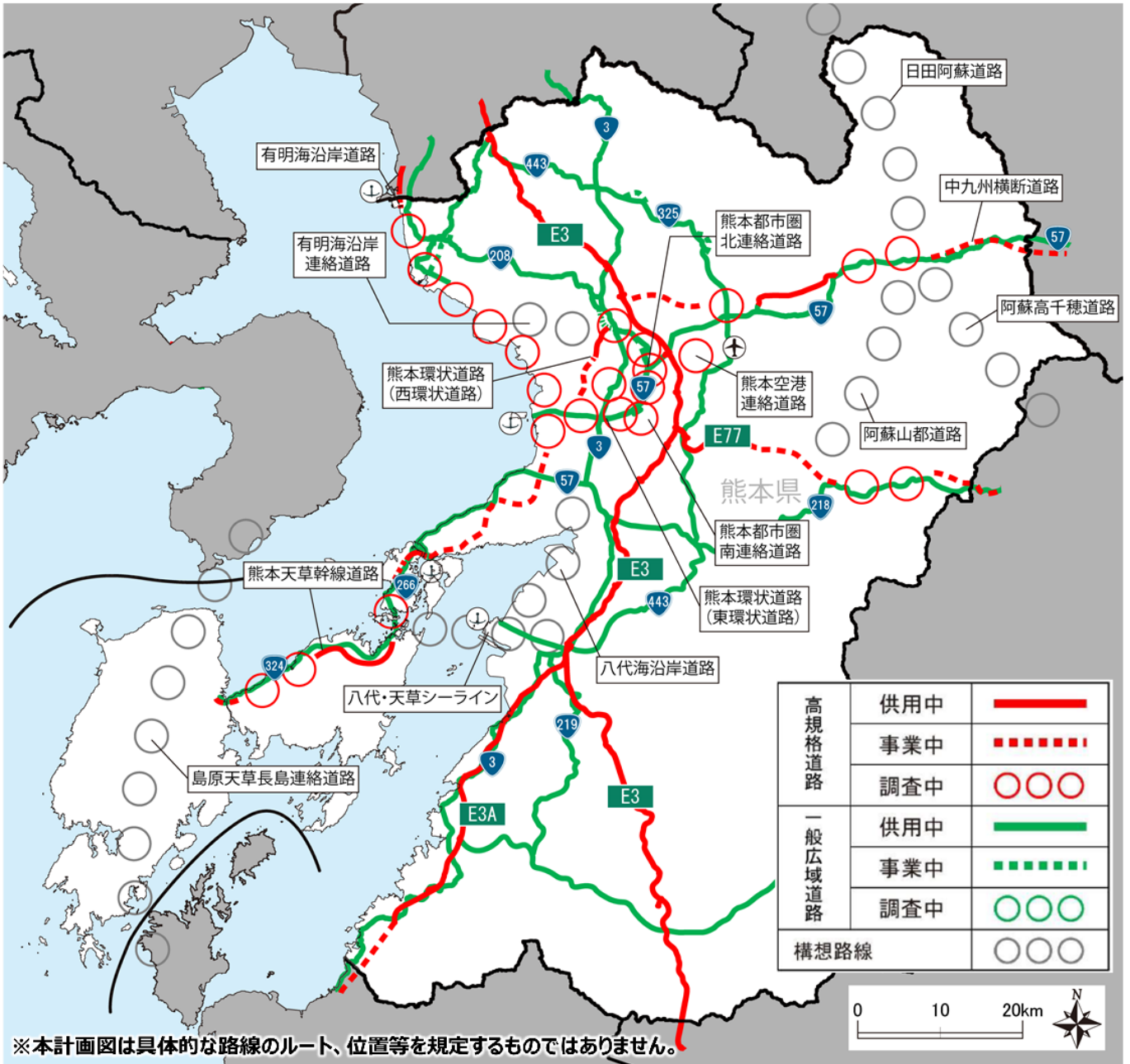
#### 10分・20分構想

「熊本市中心部から高速道路ICまでを  
約10分で結ぶ循環型ネットワーク、  
熊本空港までを約20分で結ぶ  
定時性・速達性を兼ね備えた  
道路ネットワークを構築します」

#### ダブルネットワーク構想

「県内外への支援・受援に資する  
道路ネットワークの強化と  
多重性・代替性を確保し、  
ダブルネットワークを構築します」

# 広域道路ネットワーク計画



<b>高規格道路</b> ・高速自動車国道と一体的に機能する広域的な道路ネットワーク ・サービス速度が概ね60km/h以上	●九州自動車道 ●九州中央自動車道 ●南九州自動車道 ●熊本天草幹線道路 ●中九州横断道路	●熊本環状道路(西環状道路) ●熊本環状道路(東環状道路) ●有明海沿岸道路	●熊本都市圏北連絡道路 ●熊本都市圏南連絡道路 ●熊本空港連絡道路
<b>一般広域道路</b> ・広域道路のうち、高規格道路以外 ・サービス速度が概ね40km/h以上	●国道3号 ●国道57号 ●国道208号 ●大外環状道路	●玉名縦貫連絡道路 ●八代人吉道路 ●人吉芦北道路 ●人吉西米良宮崎道路	●熊本港連絡道路 ●八代港連絡道路 ●熊本天草道路 ●熊本延岡道路
<b>構想路線</b> ・広域道路としての役割が期待されるため、今後、地域の実情に応じて必要な検討を行う路線	●島原天草長島連絡道路 ●八代・天草シーライン ●八代海沿岸道路	●日田阿蘇道路 ●阿蘇山都道路 ●阿蘇高千穂道路	●有明海沿岸連絡道路

※赤字は新規路線

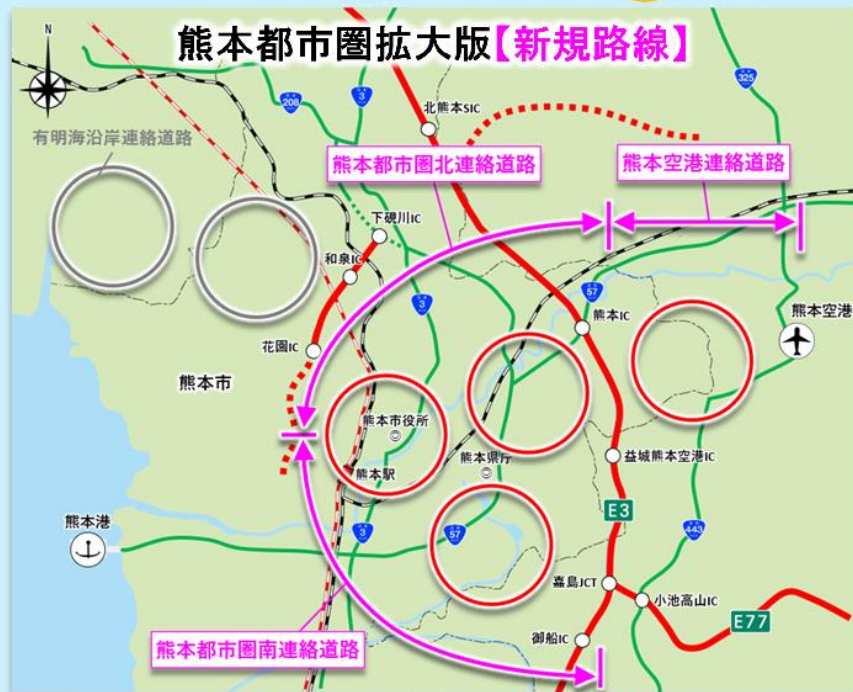
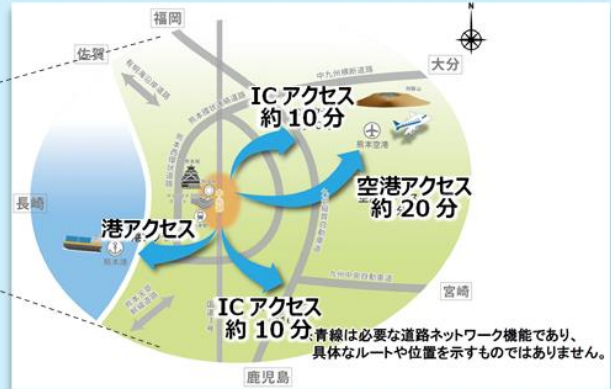
# 10分・20分構想

## 新たに必要道路ネットワーク機能イメージ

[第3回熊本都市道路ネットワーク検討会(2019年12月)における概念図]



[九州圏広域地方計画より]



※既存計画路線については、供用中・事業中区間のみ表示

# 検 討 会 開 催 概 要

## 第 1 回 検 討 会

【日 時】 令和3年11月5日（金）15時～17時

【開催場所】 桜の馬場 城彩苑 2F 多目的交流室

【出欠状況】 全構成員出席

### (1). 議事次第

- 1) 検討会設立の背景と趣意
- 2) 要綱（案）について
- 3) 現下の交通状況による経済損失と「10分・20分構想」による期待
- 4) 経済波及効果等の調査検討の進め方

### (2). 審議結果

- 熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会要綱（案）を承認。
- 座長を熊本大学 円山琢也准教授とすることを決定。
- 「10分・20分構想」の経済波及効果等の調査検討の進め方について了承。

### (3). 議事のまとめ

- 「10分・20分構想」は人流・物流・観光・災害ネットワークなどの面において、熊本はもとより九州においても必要であることを共有。
- 「10分・20分構想」の周知と併せたアンケートを行うこととし、生活者目線を意識した表記や、幅広い層への意見聴取に配慮すること。
- 経済効果については生活者の目線、将来に向けた具体的なイメージが持てる形で整理すること。



## 第2回検討会

【日 時】 令和4年1月20日（木）10時～12時

【開催場所】 熊本市役所 議会棟2階 教育市民委員会室

【出欠状況】 全構成員出席

### (1). 議事次第

- 1) 本検討会の進め方
- 2) 第1回検討会概要
- 3) アンケート・ヒアリング調査結果の概要
- 4) 10分・20分構想の実現による効果について

### (2). 審議結果

○経済波及効果の算出方法及び取りまとめの方向性について了承。

### (3). 議事のまとめ

- 「10分・20分構想」の経済効果の高さは十分うかがえる。今後は、アンケート回答数が少なかった大学生への周知を含め、ワークショップや出前講座を行うと共に、世代別での生活の変化を市民目線でわかりやすく発信し、より多くの方に知っていただけるような継続的な周知広報が必要。
- アンケートでは早期実現を望む声が多く見られる。計画の早期実現には行政のみならず経済界との連携が不可欠。今後も早期実現に向けた活動を充実する必要がある。
- 「10分・20分構想」の実現に向けた取組みを進めるとともに、短中期的な渋滞対策、公共交通との連携施策やまちづくり等も考えていく必要がある。
- アンケートの自由意見を取りまとめるとともに、次年度以降、世代別での傾向など様々な検証に活用することが重要。

## 第3回検討会

【日 時】 令和4年3月4日（金）10時～12時

【開催場所】 熊本城ホール 3階 B2 会議室

【出欠状況】 全構成員出席

### (1). 議事次第

- 1) 本検討会の進め方
- 2) 第2回検討会概要
- 3) アンケート自由意見の整理結果報告
- 4) 10分・20分構想の実現による効果について
- 5) 検討会報告書について

### (2). 審議結果

○経済効果の検討結果及び報告書の取りまとめの方向性について了承。

### (3). 議事のまとめ

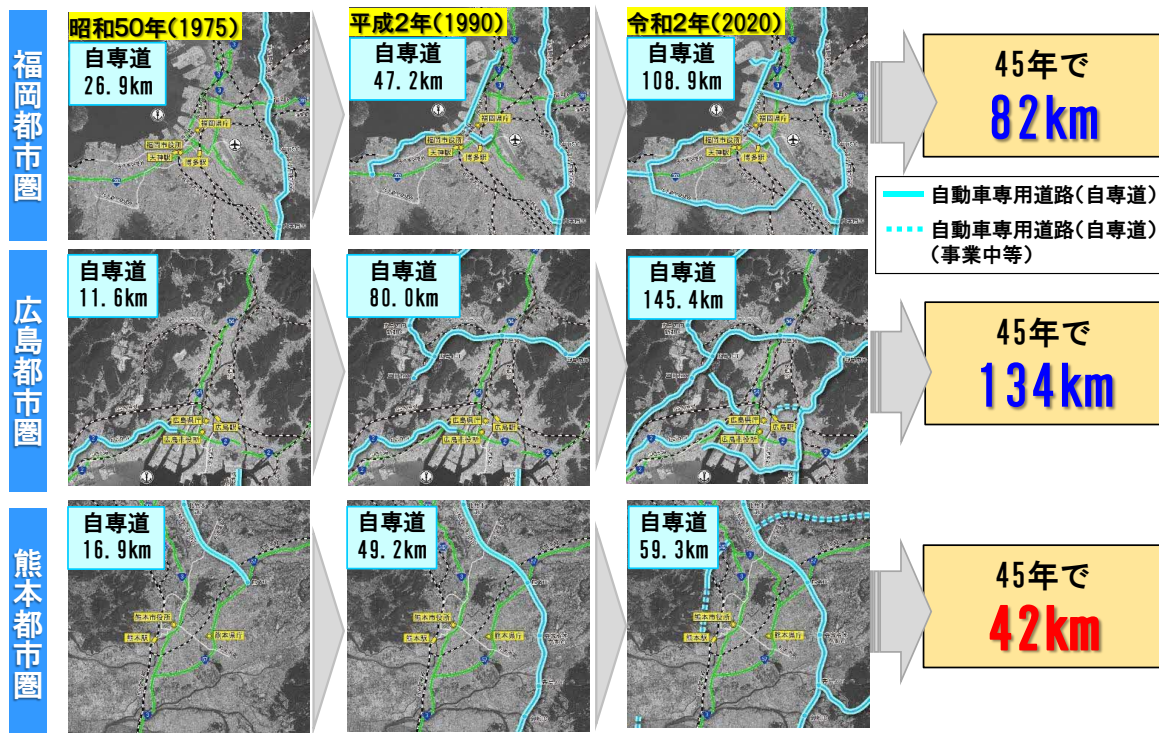
- 現時点における、県民や市民の意向・期待に基づく経済波及効果は年間約1,500億円。今後の社会情勢の変化に応じて、効果をさらに高める取り組みが大事。
- アンケートの自由意見では、財政面や実現可能性を懸念する声や、環境への配慮を求める声があったが、これら少数意見を含む様々な意見に耳を傾け、理解者を増やす努力が必要。
- 本検討会の開催並びに報告書が、県民や市民など道路利用者の理解を高め、地域の機運醸成に繋がる事を期待するとともに、行政においては、本構想の実現と短期的な渋滞対策に本気度をもって取り組んでいただきたい。

# 検討会の議事概要

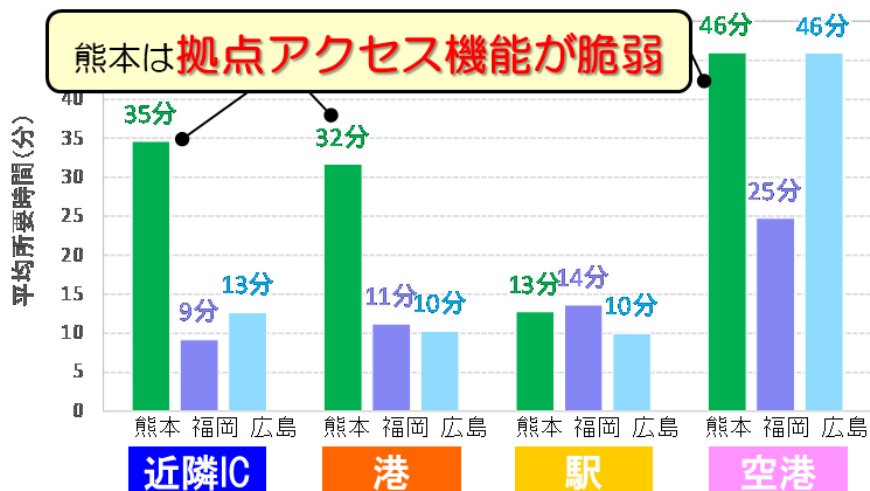
## 1. 熊本都市圏の道路網における交通課題と経済損失

○福岡・広島都市圏と比較して、熊本は環状道路と中心部の道路整備が遅れており、熊本市中心部における自動車の平均速度は、全国の政令指定都市の中でワースト1位。

○中心部～各交通拠点間へのアクセス性が低く、輸送時間の長さや時間の不確実性が問題視されている。



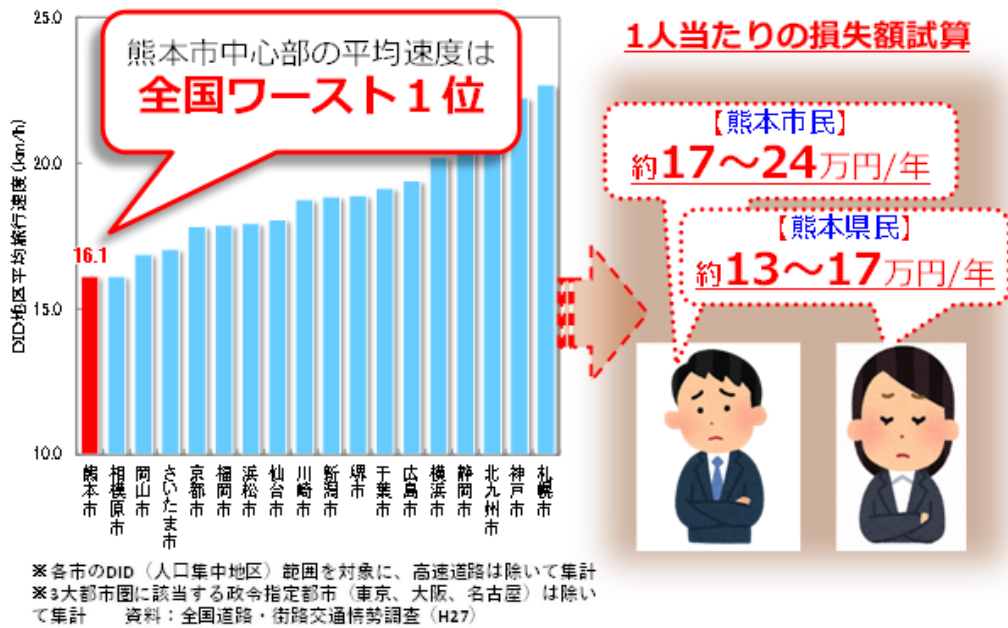
▲熊本都市圏道路網の現状



資料: H27道路交通センサス(混雑時旅行速度の上下平均値を用いて算出)

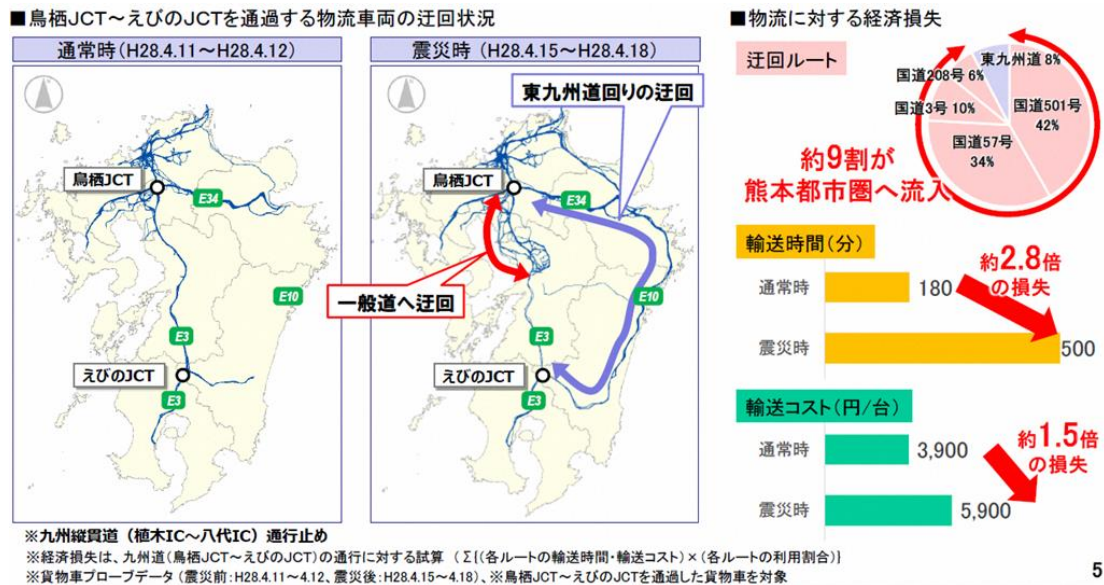
▲中心部(市役所)～各交通拠点間の所要時間

○熊本市民の渋滞損失額は約 17～24 万円/年、熊本県民の渋滞損失額は 1 人当たり約 13～17 万円/年であり、経済活動や生活に大きな影響を及ぼしている。



▲県民・市民の渋滞損失の試算

○平成 28 年熊本地震では、九州縦貫道（植木 IC～八代 IC）が発災後から約 2 週間通行止めとなり、輸送時間は約 2.8 倍、輸送コストは約 1.5 倍となる経済損失が生じた。



▲災害時の経済損失

## 2. アンケート及びヒアリング調査等について

○市民アンケートの回答数は 10,986 件、若い世代に向けた学生アンケートの回答数は 4,210 件、企業アンケートは県内外の製造業・運輸業等を中心に 556 社となるなど非常に多くの回答をいただいた。

○ヒアリングは、企業及び団体 24 社に対し実施した。加えて、熊本青年会議所及び東海大学の学生と意見交換会を実施した。

### ○アンケート

対象	アンケート方法	実施期間	対象の詳細	回収状況(票)	
住民	Web調査	令和3年12月6日～ 令和4年1月15日	主に熊本県・熊本市の地域住民・自治体・民間等	webモニター	7,014
				市民アンケート	3,972
				小計	10,986
学生		令和3年12月13日～ 令和4年1月15日	主に熊本県・熊本市の高校生・大学生	4,210	
企業	郵送調査 (3,002社)	令和3年12月10日～ 令和3年12月20日	県内外の製造業、運輸業、宿泊業、飲食業、農林水産業	556	
アンケート回収状況 計				15,752	

### ○企業・団体ヒアリング

対象	ヒアリング方法	実施期間	対象の詳細	実施数(社)
企業・団体	電話 TV会議 対面	令和3年12月6日～ 令和4年1月15日	主に熊本県内の企業(運輸業、製造業)、 県内の団体(観光系、運輸系、製造・産業系) 熊本市消防局・菊池広域連合消防本部	24

### ○意見交換等

対象	意見交換	実施期間	意見交換の詳細
熊本青年会議所会員	対面	令和3年11月29日	熊本県新広域道路交通計画の「10分・20分構想」に関する意見交換
東海大学 学生	対面	令和3年12月13日	熊本県新広域道路交通計画の「10分・20分構想」の出前講座、 現在の熊本都市圏の道路状況に関する意見交換

### ▲アンケート及びヒアリング調査等の概要

高規格道路3路線  
経済効果検討へ  
県民アンケート  
25日まで

県と熊本市は、新たな広域道路交通計画に盛り込んだ熊本都市圏の高規格道路3路線について、渋滞緩和などによる経済効果を検討するため、県民アンケートを実施している。熊本市の

新広域道路交通計画に位置づけた3路線  
熊本空港連絡道路 熊本空港  
九州自動車道  
熊本都市圏南連絡道路  
熊本市  
熊本都市圏  
北連絡道路

ホームページ上で、25日まで回答を受け付ける。3路線は、熊本市中心部から北東に延びる「北連絡道路」と、南東に延びる「南連絡道路」、北連絡道路から熊本空港方面に延びる「空港連絡道路」。

計画では、市中心部から九州自動車道の各インターチェンジまで10分(現状は

約40分)、熊本空港まで20分(同約1時間で結ぶ)、「10分・20分構想」を目指している。

アンケートは同構想の認知度や、3路線が整備された場合の熊本都市圏内での移動頻度、外食や宿泊など移動目的について質問。熊本市の主要渋滞箇所数が全国最多など、現状を紹介する資料も載せている。

市道路計画課は、「3路線の整備で県民、市民の移動がどう変化するか検討するための材料とし、構想実現の機運醸成にもつなげた」としている。

(河内正一郎)

▲熊本日日新聞 (令和3年12月22日 11面)



▲熊本青年会議所との意見交換会

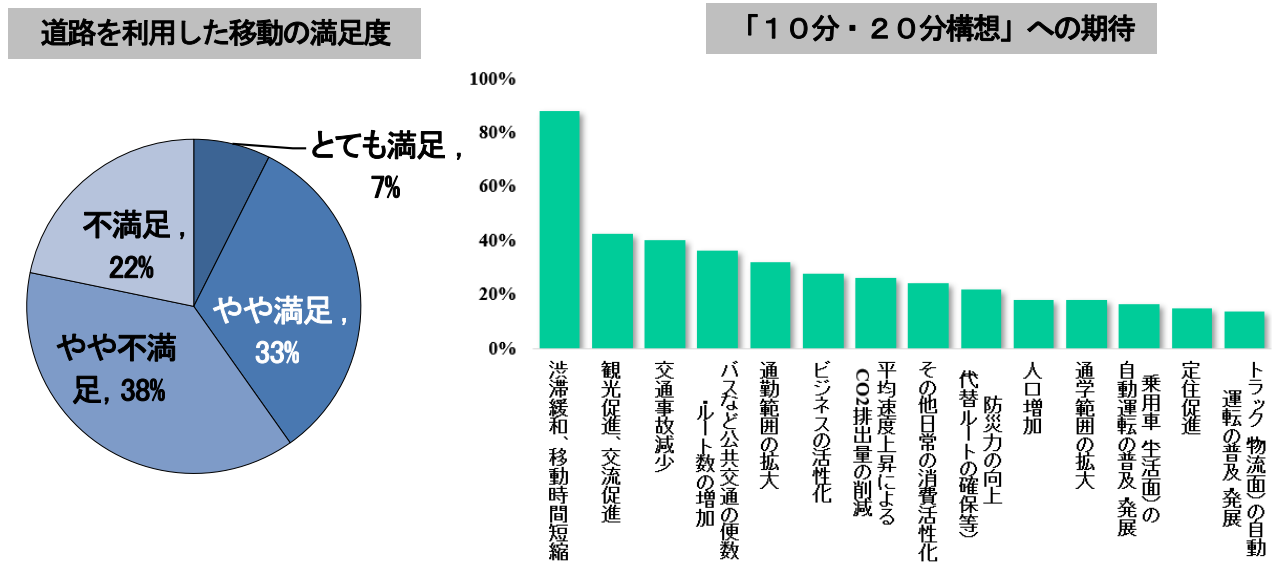


▲東海大学 出前講座

○住民アンケートの回答割合は熊本市在住者が約 6 割、熊本都市圏在住者が約 8 割であった。

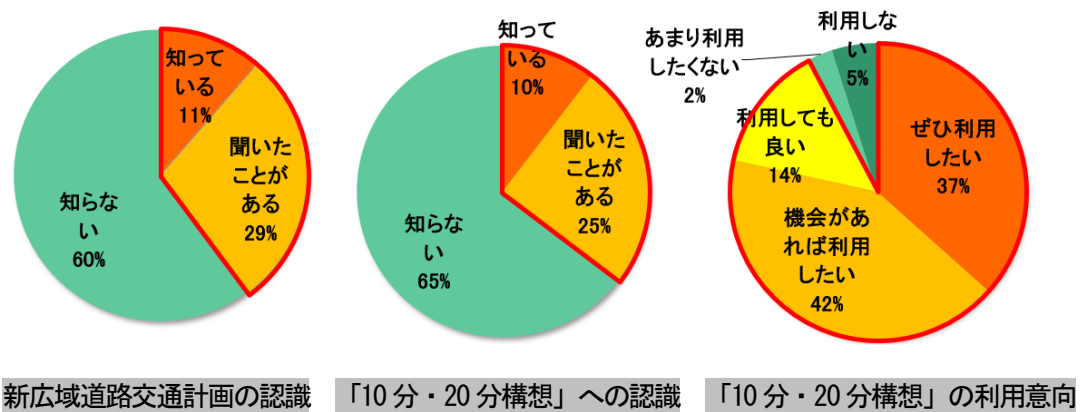
○現状の道路網に対して不満を感じている人は全体で約 6 割。

○「10 分・20 分構想」への期待は「渋滞緩和・移動時間短縮」が最も高い。



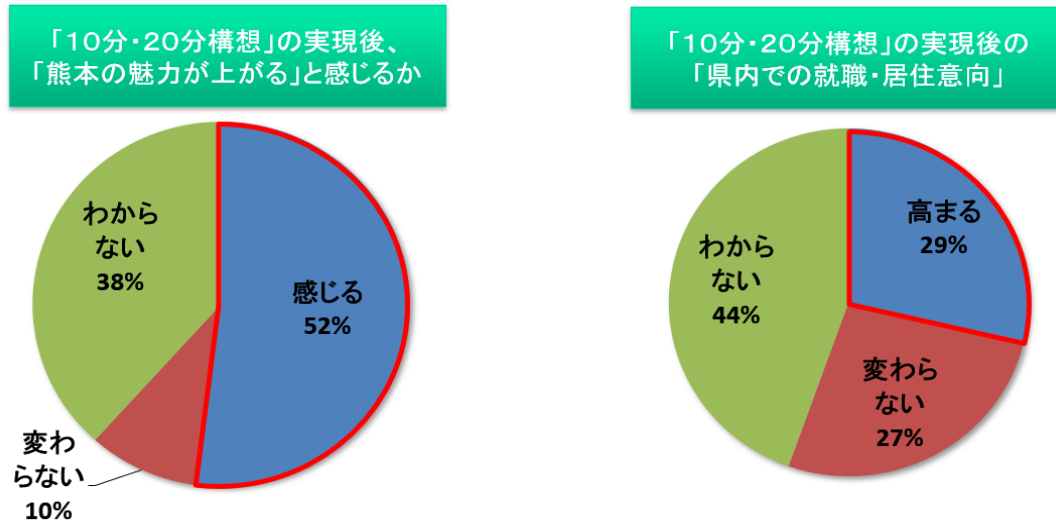
▲住民アンケート結果概要

○本構想への認識は、住民・企業ともに約 3 割、学生が約 1 割と低いが、利用意向は住民で約 9 割、企業で約 7 割、学生で約 5 割と高い。



▲本構想への認識（住民アンケート結果）

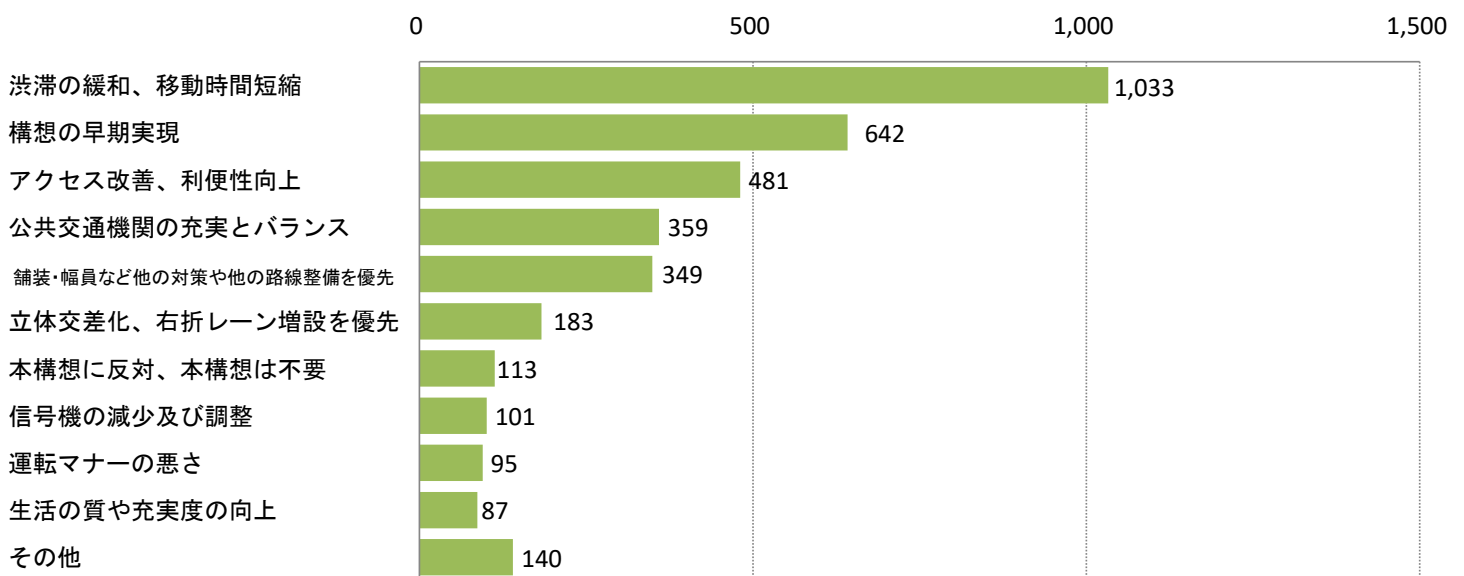
○高校生などの若い世代の意見では、県内で就職・居住したい割合が現状で約4割であり、本構想実現後、「熊本の魅力が上がる」と感じる割合が約5割、県内での就職・居住意向が高まると回答した割合は約3割であった。



▲本構想への認識（学生アンケート結果）

○自由回答では、住民・企業ともに「渋滞の緩和、移動時間短縮」や「構想の早期実現」が特に多く、その他、「生活の質や充実度の向上」など多方面に期待する意見があった。

○一方で、「右折レーン増設など他の路線整備を優先」など現状の渋滞対策への取組みを望む意見や、財源確保を懸念する意見もあった。

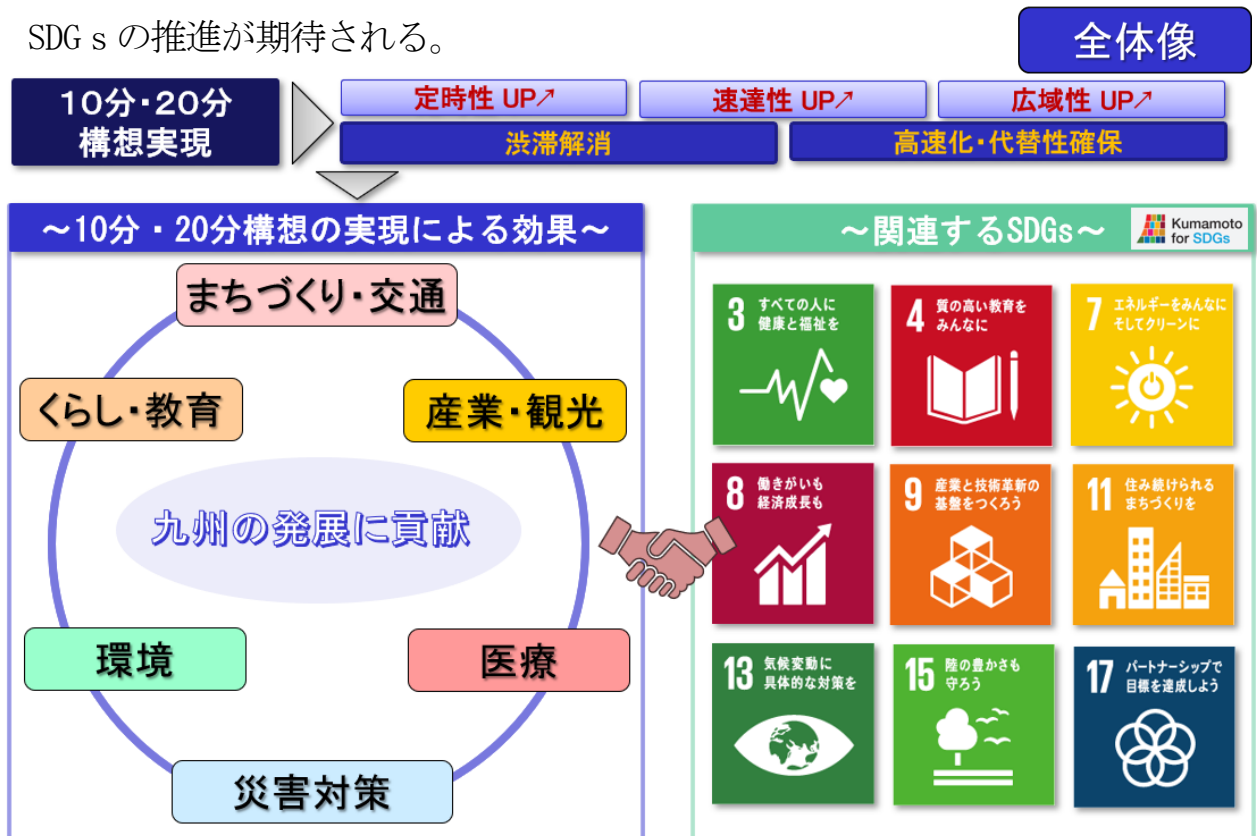


▲「10分・20分構想」と現在の道路交通に対する意見（住民アンケート自由回答結果）

### 3. 「10分・20分構想」の実現による効果

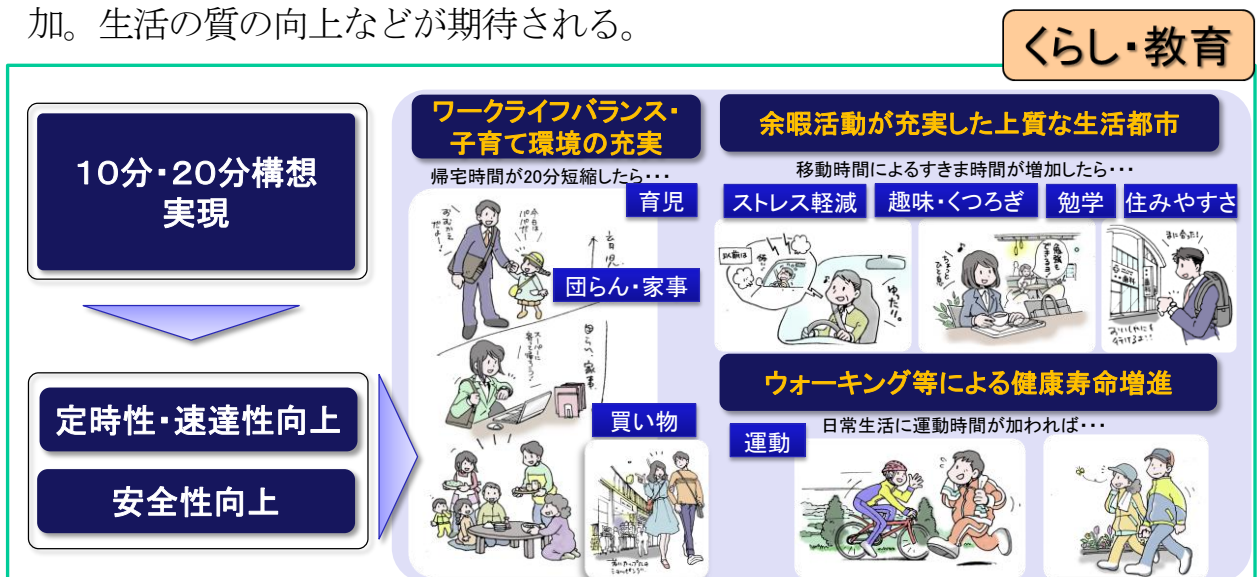
#### (1). 定性効果

○「10分・20分構想」の実現による定時性や速達性等の向上は、県民市民のくらしや産業などに様々な効果をもたらし、熊本県並びに九州の発展への貢献やSDGsの推進が期待される。



▲「10分・20分構想」の実現による様々な効果

○くらし・教育においては、移動時間短縮により、他の活動へ充当する時間が増加。生活の質の向上などが期待される。



▲くらし・教育において期待される効果



○まちづくり・交通においては、広域道路による新たな道路空間の活用や新技術の導入により、住み続けたい、住んでみたいまちの形成が期待される。

### まちづくり・交通



▲まちづくり・交通において期待される効果

○産業・観光においては、企業の集積、観光客誘致にも寄与し、企業立地のポテンシャル上昇や観光周遊性の向上が期待される。

### 産業・観光



▲産業・観光において期待される効果

○環境においては、走行速度の上昇による燃費向上・CO<sub>2</sub>削減により、グリーン社会への貢献や気候変動リスクの抑制が期待される。



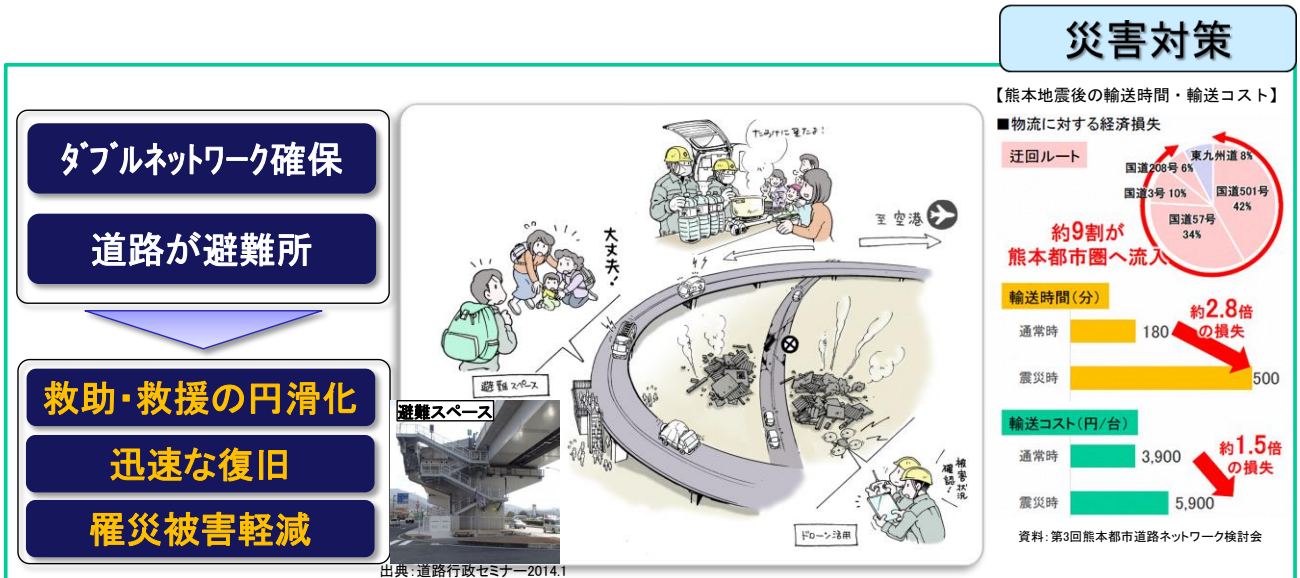
▲環境において期待される効果

○医療においては、緊急車両の帰署時間の短縮による、待機車両の安定的な確保や搬送中の揺れ・振動などの患者への負担軽減も期待される。



▲医療において期待される効果

○災害対策においては、ダブルネットワークの確保等により、救助・救援活動の円滑化や迅速な復旧が期待され、都市レジリエンス強化につながる。



(2). 定量効果

○熊本県域を対象とした経済波及効果は、年間約 1,500 億円と算出され、その他、災害発生時の売上減少が抑制される効果は約 3,600 億円と算出された。

経済波及効果 ※1

平常時



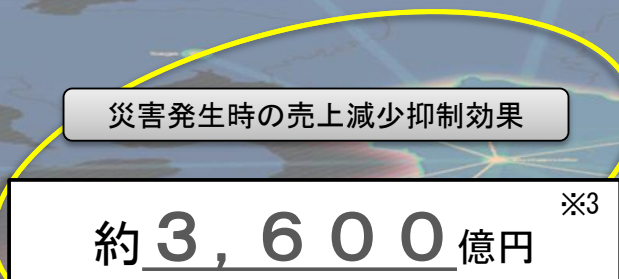
(単位:億円/年)	熊本県
観光消費の増加	328
企業進出投資の増加	59
日常消費の増加	505
物流の活性化・効率化①(売上増加)	324
物流の活性化・効率化②(コスト削減)	258
CO <sub>2</sub> 排出量削減の金銭的価値	9
合計	1,483
生産額比※2 (参考値)	+1.47%

※1:経済波及効果は、統計値と本検討会で実施したアンケート結果を乗じて試算した需要増加額を産業連関分析することで算出。ただし、「物流の活性化・効率化②(コスト削減)」はコスト削減額、「CO<sub>2</sub>排出量削減の金銭的価値」は削減量を金銭価値化した額を経済波及効果に含めた。

※2:経済波及効果合計を、産業連関表の域内生産額合計(生産額は企業での「売上高」にあたるもの)で除したもの。(熊本県の例:1,483億円÷101,207億円=1.47%)

その他の効果

災害時



(単位:億円)	熊本県
災害発生時の売上減少抑制効果	3,565

※3:日常、主に使用する道路において、1年間通行止めが発生したと仮定した場合

# 「10分・20分構想」実現に向けた提言

## 1. 継続的な周知広報と機運醸成

○本検討会においては、「10分・20分構想」の経済効果は非常に高いと認識する一方、アンケート結果によると、本構想に対する県民市民等の認識度は十分とは言えない。本構想の実現には、県民市民をはじめとする道路利用者の理解が不可欠であることから、今後も、パンフレットの活用やシンポジウムの開催など継続的な周知広報活動を行いつつ、機運醸成に努める必要がある。また、構想実現に際しては、財政面などを懸念する声も見られたことから、様々な意見に耳を傾け理解者を増やす努力が求められる。

## 2. 早期実現に向けた取組の強化

○「10分・20分構想」により非常に大きな経済効果が期待されるうえ、アンケートにおける県民市民や企業等の意見でも、本構想の早期実現を望む声が数多く見られたことから、熊本都市圏及び県全体の持続可能な発展に向け、本構想の早期実現が強く求められる。また、本構想の早期実現にあたっては、行政と経済界及び地域が連携し、一丸となった建設促進に取り組む必要がある。

## 3. 即効性の高い渋滞対策と公共交通施策との連携

○「10分・20分構想」の実現に向けた取組みを進めるとともに、熊本都市圏における喫緊の課題である交通渋滞の軽減を図るため、道路改良等による短中期的な渋滞対策や公共交通との連携施策を講じるなど、持続可能なまちづくりを見据えた交通体系を構築していく必要がある。